

船橋市社会科セミナー通信 第134号

11.24土報告



勉強会会場はいつもの「プラウド・ター-船橋」。
今回の出席者は、会場担当で事務局長の大野肇先生(習志野四中)・小倉隆志(浦安市教委)・野宮典子(若松中)・齋藤美夏(若松中)・大久保徹(南本町小)・西巻慶一(船橋中)の各先生と会長の池田(習志野台中で初任者指導)の**合計7名**。齋藤美夏(若松中)先生が初参加してくれました。今回は残念ながら、目標の10名に達することができませんでした。

24 関中社研 & 千社研に向けた「授業力向上勉強会」は前回で終了しました。

1本目:浦安市「立志塾」の石巻訪問

小倉隆志先生(浦安市教委)

以下は前回報告があったものですが、前回の参加人数が少なすぎてもったいなかったの、今回も報告していただきました。

浦安市には、浦安市教育委員会主催で浦安市8中学校の中学生リーダー育成のために「立志塾」という活動があるそうです。

「浦安市立志塾」は本年度の活動として、この夏、8/20~22の2泊3日で宮城県の石巻市を訪問して来ました。今回の訪問先が石巻になったのは、浦安市は東日本大震災で液状化などの大きな被害を受けましたが、地震と津波で大きな被害を受けた東北地方の都市を訪問して、実際の被害の様子をその目でみて、現地の方の生の声をお聞きすることが、浦安から将来のリーダーに期待される中学生にとって、大変貴重な体験になるに違いないこと、できれば、浦安市の人口とほぼ同じ16万人の都市の石巻市がいいとの、市長のお考えで決まったそうです。

小倉先生は、「立志塾」の実行委員として、この訪問に同行したとのことで、その時のことを本セミナーで報告してくれました。



2本目:関中社研&千社研・南本町小公開の報告

池田義光

24関中社研&千社研、南本町小公開研の記録

大会名

○第30回関東ブロック中学校社会科教育研究大会千葉大会

○第44回千葉県教育研究会社会科教育部会研究大会船橋大会

○船橋市教育委員会指定「確かな学力の向上」南本町小学校公開研究会

期 日：平成24年11月8日(木)

[午前の部] 船橋市民文化ホール：全体会

受付 8:30～9:00 午前中の参加予定 約350名

開会行事 9:30～10:00 関中社研会長挨拶、船橋市教育長挨拶、千葉大会実行委員長挨拶

基調提案10:00～10:20

提案者：研究部主任 船橋市立大穴中学校 富澤真也 教諭

大会主題：社会参画力を育てる社会科学学習のあり方

～「中心概念と単元の構造化」「問題解決型学習」「学び合い」を通して～

記念講演10:30～11:50 →別紙

講師：全体講師 筑波大学 唐木清志 准教授 演題：社会科と社会参画

[午後の部] 中学校3会場、南本町小学校：公開授業、分科会

約550名

<船橋中学校会場>

公開授業1 授業者：村田伸子 教諭 単 元：(2年) 身近な地域の調査

公開授業2 授業者：橋口 淳 教諭 単 元：(3年) 消費生活と経済のしくみ

分科会 ・指導講評：浦安市教育委員会 島村淳一 指導主事

講 演 ・講師：文部科学省 濱野 清 教科調査官

<宮本中学校会場>

公開授業1 授業者：皆川高士 教諭 単 元：(2年) 明治維新と立憲国家への歩み

公開授業2 授業者：千葉信也 教諭 単 元：(3年) 暮らしを支える地方自治

分科会 ・指導講評：八千代市教育委員会 小林伸一 指導主事

講 演 ・講師：文部科学省 樋口雅夫 教科調査官

<行田中学校会場>

公開授業1 授業者：鎌形順一 教諭 単 元：(1年) 南アメリカ州 開発の進展と環境問題

公開授業2 授業者：強田裕一 教諭 単 元：(2年) 新政府の国づくり

分科会 ・指導講評：葛南教育事務所 大道寺正剛 指導主事

☆問題解決型学習について

○H1年版学習指導要領に「適切な課題を設けた学習」→しかし普段は一問一答型の授業

○学習課題が、作業課題(～しよう)になっていないか

○学習問題には、5W1Hの発問形式をとること。これがしっかりしないと何をやっているのか分からない

○自己決定をさせよう、自己存在感を持たせよう

○単元の目標に迫る学習問題を！ ○追究できるような学習問題を！

☆学び合いについて

○グループでの討議は増えている→butカラオケ型の発言が多い。学び合いは他者の価値観をシェアが必要 ○6人では多い。4人が限界 ○いつ誰にあたるかわからないようにやる ○活動時間の保障が必要 ○自分の考えを書かせる→相手に分かりやすく説明させる ○他人の意見を聞いて、比較・関連・総合・再構成できるように指導する

☆本日の授業は、行田中の学級の母集団があつてこそ。

講 演 ・講師：国立教育政策研究所 二井正浩 総括研究官

演題：新しい学習指導要領における社会科と社会参画力

<南本町小学校会場>

公開授業1 授業者：谷川一仁 教諭 授業者：松金千紘 教諭

単 元：(3年) スーパーマーケットの仕事

公開授業2 授業者：齋藤文江 教諭 授業者：石森靖敏 教諭

単 元：(4年) ごみの処理と利用

公開授業3 授業者：橋本哲史 教諭 授業者：小松崎千佳 教諭

単 元：(5年) 社会を変える情報

公開授業4 授業者：大久保徹 教諭 授業者：井上雅晴 教諭 授業者：高橋 敦 教諭

単 元：(6年) 明治の国づくりを進めた人々

[レセプション] 18:00～フローラ西船7F

約160名

1. 開会の言葉→2. 主催者挨拶(関中社研会長、実行委員長、船橋市教育長)→3. 祝辞(唐木

准教授、濱野教科調査官) → 4. 来賓紹介 → 5. 関中社研表彰 → 6. 乾杯 → 7. 歓談 → 8. 授業者紹介 → 9. 次期開催地挨拶 (横浜市、市原市) → 閉会の言葉

記念講演 社会科と社会参画

筑波大学准教授 唐木清志 先生

1 自己紹介

- (1) 私はずっと社会参加を研究してきた。最近「社会参画」という言葉が使用されているが、大差はない。
- (2) 問題意識
「今度新しく設けられた社会科の任務は、青少年に社会生活を理解させ、その進展に力を致す態度や能力を養成すること」(1947年試案)

2 中学生への質問紙調査

3 新教育課程と社会参画

- (1) 社会参画から考える、社会科の「これまで」「今」「これから」
社会科では「これまで」「今」「これから」も、社会参画を中心に社会科をつくってほしい

- (2) 社会科改訂の趣旨と社会参画

「社会参画力」育成の重要性

- ① 社会科は本来「社会参画力」の育成をめざす教科：小・中学校社会科の目標である「公民的資質」の基礎を養うには「社会参画力」の育成が必要。社会科としての「生きる力」

社会科は、社会認識を深め、社会との関わり方を考えさせる教科

従来から「社会的態度」「社会形成力」「社会的実践力」「社会とのかかわり」などとして「社会参画力」育成が求められていた

- ② 特に近年、改正教育基本法と20年1月中教審答申を受けて「社会参画力」が重視

◇教育基本法第2条(教育の目標)第3号

「～、公共の精神に基づき、主体的に社会に形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」

◇20年1月中教審答申

- 1) 社会科の課題：よりよい社会形成に向けて、主体性をもって社会に積極的に参加し課題を解決していく力の育成が重要
- 2) 小・中・高校社会科改善の基本方針：「～持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する」

- (3) 「社会参画に関する学習」に対する誤解

問：それは行動を必然的に伴うものですか？(例：ごみを拾わないと駄目か)

(答) 行動は選択肢の一つ

「科学的社会認識(確かな社会認識)」「意思決定力(価値判断力)」「社会的実践力(社会的行動力)」の三つの能力観から、社会参画に関する学習をとらえられる

4 社会参画につながる「今」の社会科授業

- (1) 社会科授業で大切にされるべき三つの視点

① 社会問題を教材化すること ② 話し合いを大切にすること ③ 子どもに自分の意見を持たせること

- (2) 事例1：山の自然を生かした人々の暮らし(桧原村)(小学校4年生)

① 社会問題を教材化すること ☆学習問題をつかませることは大事

桧原村は人口が年々減少(40年間で半減) → 桧原村に行ってみると、「こんなにいい村なのになぜ若い人が出て行くのか?」: 子どもたちに考えさせたい

② 話し合いを大切にすること: 「桧原村の人々はなぜ残っているのか?」

③ 子どもに自分の意見を持たせること

☆問題が問題を生む構造

1) なぜ減っているのか? <つかむ> 2) なぜ住み続けるのか? <調べる>

3) どうしたら増やせるのか <まとめる・深める>

- (3) 事例2：再生可能エネルギーについて考える(茨城県C中学校2年生)

「意思決定力(価値判断力)」の育成をめざす

例：ごみの有料化問題に賛成か反対か

例：磐梯朝日国立公園の再生可能エネルギー推進策へ賛成か反対か

5 社会参画の視点を生かした「これから」の社会科授業

(1) 「自分たちにできること」を考えさせる社会科授業(小学校の場合)

学習の進め方：つかむ→調べる→まとめる→**いかす** (自分たちにできることを考え、提案する)

ただし、「自分たちにできること」をいかすためには

①無責任で根拠のない提案を排除する

□「つかむ」に十分な時間をとり切実感を高める

□子どもの「調べる」を保証するためには教材開発を充実させる (例えば、教師が現地で聞いてくること)

□子どもの提案を「計画」と「協力」から評価する

②子どもの意識変容や行動変容を長期的に看取る

(2) 「参加型学習」を取り入れた社会科授業 (中学校の場合)

参加型学習＝学習者とその学習過程に自主的・協力的に参加することをめざす学習方法

(例) ランキング、KJ法、ウェビング、シミュレーション、ロールプレイングなど

参加型学習の教育的意義：切実感を高める (自分の問題として

公民的分野の最期の「ミニ卒論」を社会科7年間のまとめとして、参加型学習で

6 「社会参画」から考える社会科の使命

20年後の子どもたち。今の社会に対応できる子どもを育てる社会科ではなくて、「これから」の社会を「創造」できる子どもを育てる社会科を！ 子どもの可能性を引き出すのが社会参画型の授業

3本目:知っ得ニュース9

池田義光

[1]アメリカ大統領選挙について、何が問題になったのか？→省略

[2]尖閣諸島の領有問題でなぜもめているのか？→省略

[3]竹島の領有問題でなぜもめているのか？→省略

[4]中国の新体制はどうなったのか？→省略

[5]国会の会派と政党はどう違うのか？→省略

12月セミナー予定12月15日(土)

＜勉強会＞は、**プラウドタワー船橋**1階入口 **3時**集合

1. 知っ得ニュース10 (池田義光) 2. これからの社会科 (藤木信弘)

3. (報告者募集中！)

※終了後 **船橋駅周辺**で **6:30頃**から＜懇親会＞

⇒出欠席をできれば **2週間前までに池田宛てにお知らせください**



プラウドタワー(船橋北口)

出欠席の連絡は当方からの問い合わせの前にいただけると助かります。ikeyoshi.24@gmail.com

または chi-den...gikou_ikeyoshi@docomo.ne.jp

お知らせ：社会科セミナーのホームページができました 船橋市社会科セミナー、で検索ができるようになりました！

「次回の社会科セミナーのお知らせ」や「社会科セミナー通信のバックナンバー」「韓国見聞録やベトナム見聞録」も公開されておりますので是非ごらんください。

今後は、その HP(ホームページ) から **ikeyoshi.24@gmail.com** 宛てに出欠席の返事をお願いします。